



「命と電池」

命はとても大切なものだ。多分、人間にとって最も大切なものだと思う。

命がなくなれば人間は死んでしまう。命があるから人間は動いたり考えたりすることができる。

この前、ラジコンで遊んでいる時に、初めは勢いよく動いていた車が、長い時間遊んでいるうちにだんだん動きが遅くなり、とうとう止まってしまった。

その時、ふと思ったのが、自分たち人間の命のことだった。ぼくたちも、生まれてから、子どもの間や若いうちは、元気に走り回ることができる。でも、少しずつ年を取って、老人になると、だんだん動けなくなっていく。

そして、最後は命の火が消えて死んでしまう。命は、ラジコンの中に入っている電池と似ていると感じた。

でも、人の命と電池には大きく違うところがあると気が付いた。電池は、使い始めた時からはじまって、中の電気がなくなれば終わる。とても単純だけど、電気がなくなるまでは終

わりは来ない。

でも、人間の命はそうじゃない。テレビのニュースを見てみると、突然車が突っ込んで来て死んでしまった人の話や、犯罪に巻き込まれて殺されてしまった人の話や、自殺してしまった人の話が毎日のように流れている。

人間の命は、電池と違って突然なくなってしまう場合がある。本当なら90才や100才まで生きることができたかもしれないのに突然終わってしまう事がある。普通に最後まで生きることができたら、きつというんな事が経験できたはずだ。

人間の世界は電池のように単純じゃないから、危険がいっぱいある。命を終わらせたくない人たちの命が突然終わってしまうのはとても悲しいことだと思う。

毎日を無事に生きていくことは、実はとても難しいことなのかもしれない。毎日元気に生きていることは、すごいことなのかもしれない。ぼくの中で今日も命は続いているけど、それを当たり前だと思っているのは、間違っているかもしれない。

講評

だから、一日一日を大切にして生き続けていかないとけないと思う。辛いことがあっても、悲しいことがあっても命を大事にして生き続けていくことがすごく大切だと思う。

勢いよく動いていたラジコンカーが電池切れで止まった。命は電池と似ている。しかし、テレビで事故や事件のニュースをみて、電池は最後まで使うことができるが、人間の命は「突然亡くなることもある」という大きな違いに気が付く。そして、「毎日を無事に生きていられることは、実はすごいこと」とあたりまえの日常への感謝につながる。命についてしっかりと考えをめぐらせ、無理な展開もなく結論に丁寧に導いていくことができている。

